

西暦 2026年 1月 28日

2005年1月から2028年1月までに 肝癌と診断された患者さんへのお知らせ

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた情報の記録に基づき実施する研究です。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（西暦2021年3月23日制定 西暦2023年3月27日一部改正）」により、対象となる患者さんのお一人おひとりから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。この研究に関するお問い合わせ、また、ご自身の診療情報が利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名 肝癌の治療別予後および再発因子に関する検討
2. 研究期間 西暦2021年 3月9日 ～ 西暦2028年12月31日
3. 研究機関 産業医科大学病院消化管内科・肝胆膵内科、産業医科大学第3内科学
大分赤十字病院（第一肝胆膵内科）
4. 実施責任者 産業医科大学医学部 第3内科学
講師 本間 雄一

5. 研究の目的と意義

【目的】

肝癌患者さんの血液検査、画像検査、基礎疾患、治療方法、性別、年齢、内服薬等で、治療後の予後因子や治療の予測因子を検討します。これらの因子を明らかにする事により、今後の肝癌治療に役立つ事を目的としています。

【意義】

肝癌に対しては手術、局所療法、放射線療法、肝動脈化学塞栓療法や薬物療法など様々な治療法がありますが、進行度や全身状態のみならず肝予備能を考慮して選択する必要があります。肝癌には多くの病態が存在しそれぞれの病態や治療効果を見極めることは非常に重要となってきます。

6. 研究の方法

この研究は、大分赤十字病院(第一肝胆膵内科部長 成田竜一)との共同研究です。産業医科大学病院および大分赤十字病院にて2005年1月から2028年1月までに肝細胞癌に対する検査及び治療を行った患者さんを対象とし、共同で情報の集積、解析

を行います。日常の一般診療で行われている診療記録、採血検査や画像検査のデータを使用します。肝組織生検を行った方は病理学的検査結果も使用します。その後の予後に関して、経時的に後方視的にカルテ調査を行うことで検討します。

7. 個人情報の取り扱い

得られた個人情報を取り扱う際には、個人が特定できないよう安全管理措置を施した上で匿名化（番号化）します。また、本学の患者さんの情報を大分赤十字病院に提供する場合がありますが、情報は暗号化/復号化付き USB を郵送、もしくは暗号化した状態でメールを送受信する事で対応し個人情報の安全管理に努めます。この研究で得られたデータは、研究終了後 5 年間（もしくは当該研究の結果の最終の公表について報告された日から 3 年間）まで本学第 3 内科学講座研究室（1207）の鍵のかかる保管庫で保存します。本研究で得られた情報は、個人情報が外部に漏れないように紙媒体はシュレッダーを使用し廃棄し、電子データはデータを完全に消去するツールを使用し廃棄します。また、患者さんが参加を拒否された場合は、その時点までに得られたデータを廃棄します。「ご自身のカルテ情報は除外してほしい」と望まれる患者さんは下記までご連絡下さい。

8. 問い合わせ先

産業医科大学医学部 第 3 内科学
本間 雄一
福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1
TEL 093-603-1611

9. その他

この研究への参加による謝礼や費用の負担は発生しません。

この研究は一切の利益相反はなく、産業医科大学利益相反委員会の承認を得ており、公正性を保ちます。